



第一回



保育環境の評価と 情報収集・分析の手続き



今日の予定

- 保育環境の構造化
 - 個の特性に応じた、保育環境の整理
 - 対応する行動の明確化
 - 対応する優先順位と連携の評定
 - 保育記録と分析
 - 情報から分析へ
- 



保育環境の構造化

「わかる」保育を目指すために



言って聞かせても・・・

有川・立田(2015)は、小学校1年生5校、幼稚園5園の5歳児のトラブルと、その対応について一年間にわたって調査を行った。

すると・・・

- 幼稚園では、「トイレや手洗いなどの日常生活に関わる場面」「集団活動場面」に友だちとのトラブルが頻発していた。
- 入学間もない1年生は、「体育、図工」「算数・国語」「不定期の行事」などが比較的多くトラブルが起こっていた。
- どちらの場合も、とられていた対応は圧倒的に「言い聞かせる」であったが、それだけでトラブルが消失したことは少なかった・・・。

足型があれば・・・



- 幼稚園や、保育園では、トイレ前や水道付近は、トラブル多発地帯であつた。「横入り」や「並ばず、注意される」などがその理由。
- なので、定時排泄や、給食の前などの時間は、あちこちで小競り合いが起こります。
- だから・・・こうしてみました。

大人だって・・・



- 大阪駅の環状線ホームの利用客は、かなり多い。
- そして、きっちり列をつくらないところがまた大阪らしい。
- だから・・・

そして、いまや・・・
ここまでくるとカオスなんですけど





保育環境をつくる



「わかりやすい保育」をつくる

- お昼寝から起きて、おやつを食べた後に絵本を子どもたちに読もうと思います。子どもたちに、この活動内容を理解させるために次に示すことについて、保育を見直すことにしました。
- あなたなら、次の点について保育上、どのような手立てをとりますか？

子どもに伝えるポイントは4つ

その活動は

- 「どこで」 (Where)するか
- 「いつ・いつまで」 (When)するか
- 「なに」 (What)をするか
- 「どうやって」 (How)するか

4つのポイントが子どもに示されているか見直してみる

その活動は「どこで」する

- その活動は、「どこでするか」子ども達にわかりやすく伝わっているか。
- その活動は、「どこ」あるいは「どのような環境」ですることが望ましいのか。



環境の作り方

- 分かりやすい「境界」を作る
「絨毯の色」「棚の配置」「間仕切り」
- 「活動」と「場所」を対応させる
「おやつ・給食の場所」「絵本を読む場所」「スケジュールを確認する場所」
- 活動に不要な刺激の除去
「掲示物」「人の動き」「時計の位置」
「音」「光」

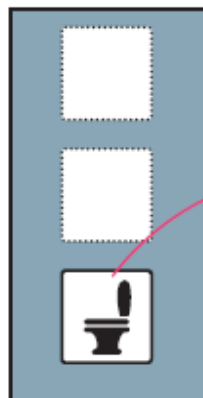


その活動は「いつ」するか、「どこまでするか」が伝わっているか

- その活動は、「いつ始まるか」「いつまで続くのか」「どのような状態になると終わるのか」あるいは「どれだけの量があるのか」。
 - スケジュールを子どもが理解できる方法で示されているか。
 - 示されるスケジュールの長さ・数は適切か。
- 

どれがよいか？

どのようなものが
一番わかりやすいか…？



次の行動のみを表示

文字のスケジュール

- 終わったカードは
下に入れる

→次の行動へ移るための
切り替え

トランジションエリア
などでも活用

今日の予定	
10:00	
10:20	作業
11:30	休けい
1:00	作業
1:80	帰宅

絵カードと文字のスケジュール

文字のリスト

10:00	20分	作業所へ移動
10:20くらい	40分	作業 (ピッキング)
11:20	20分	(休憩 好きなゲーム)
12:00	60分	昼食
15:00くらい	20分	家へ移動
20:00		就寝

「なに」をするか 「どのように」するか

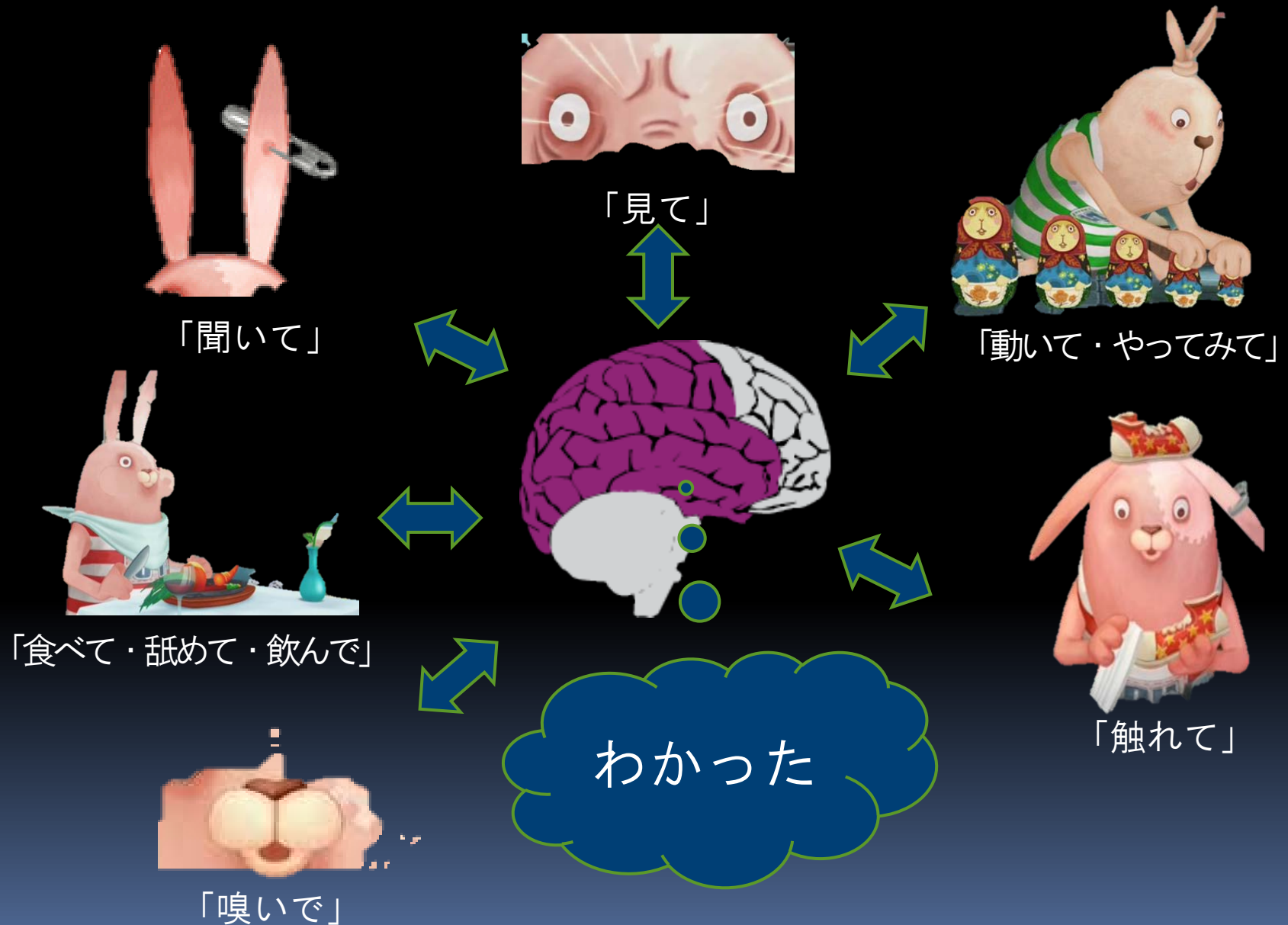
- 「なに」をするか、子どもの多様な「わかる」に対応して示されているか。
- 目が見えているから「わかっている」、耳が聞こえているから「わかっている」わけではない。
- 個々の特性に応じた伝え方を再検討すること。



ちゃんと前
見て歩いてく
ださい!!
危ないですよ



「わかる」ための回路はこれだけある



聴覚的な短期記憶って・・・

- 「マジックナンバー7±2」 Miller (1956年)

人は、一度にそれほど多くの指示を理解できない!



No more! 「ダラダラ」説明





演習

ジロウさんの事例



ジロウの事例

一か月後に控えている運動会の準備が、おとといから始まりました。この時期は、通常の保育の流れとは異なる活動が多くなります。例えば、遊戯室を使う順番の関係上、自由遊びを十分にできなかったり、活動と活動の間隔が短くなりやすく、保育の見通しが付きにくいことがたびたび続いていました。

ジロウさんは、最近、この急な変更がなかなか受け入れられずにパニックになります。パニックになった時は、本人に変更の理由をできるだけ時間をかけて説明しますが、ことばの理解も不十分なため、どうやら変更の理由はわかってくれず、いつもの日課に従おうとします。

このまま、一人で、部屋に置いておくこともできないので、無理に遊戯室に連れていこうとしましたが、それをすると手が付けられないほど泣き、暴れます。そのまま抱きかかえて慰めるようにしてパニックをおさめようと思いますが、なかなか収まりません。最後には、そのまま連れ出します。

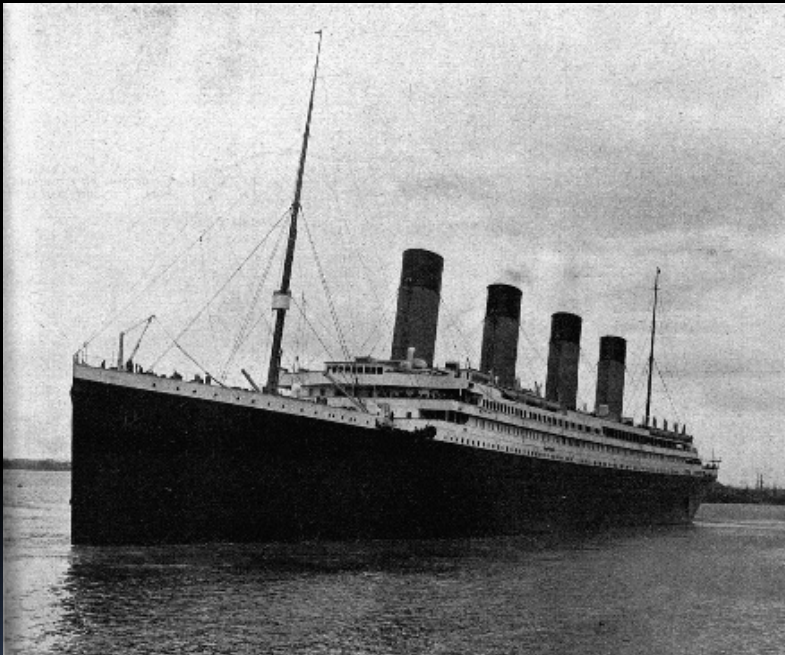
結局のところ遊戯室へ行っても、練習どころの騒ぎではなくなり、今日は、たまたま手が空いていた園長先生に、保育室で見えてもらうことになりました。

家庭においても、このような姿は頻繁にみられており、母親も一度このような状態になると手が付けられなくなるので、しばらく放っておくことにしているそうです。放っておいても、直ちにパニックが収まることはありませんが、時間の経過とともに落ち着いてくることもあるそうです。

園での様子を伝えると、母親も「なんとか聞き分けがよくなってくれるといいのですが・・・」と対応に苦慮している様子が見られました。

こんなことが、しばらく続いています。

タイタニック号はなぜ沈んだか?





課題となっている行動

本人の特性

環境・状況

必要なサポート



なにを「問題行動」とするか?

意外と定まっていない「問題」



子どもの行動

Practice !

- 子どもの「行動」で、気になるものを3つあげてください。

Question ?

それは本当に「行動」ですか？

どの行動を改善、もしくは伸ばしたいかを明らかにするには以下の3点について検討する。

- その行動は、「地蔵テスト(死人テスト)」を通過できているか。つまり、「地蔵にはできない内容」になっているか。
- 行動的翻訳はできているか。
- 優先的に改善、もしくは伸ばしたい行動は何か。



その1

改善、もしくは伸ばしたい行動を明確にする

測定できる行動にするために

「行動」として定義できますか？

以下の事は「行動」として定義できるか答えよ

- ケーキを食べない
- 蜂に刺される
- 今日の昼食のことを考える
- 車にひかれる
- 鉛筆を持つ
- 二階から落ちる
- 教室内を歩く
- 会議中、発言しない
- テレビを見ている
- 倒れている人を見るが、何もしない

「行動」として 明確にできないもの・しにくいもの

1) 「～される」と言う 「受け身」 のもの

例: 「車にひかれる」

「蜂に刺される」

2) 「～ない」「～しない」と言う 「否定」 や 「非
行動」 と呼ばれるもの

例: 「ケーキを食べない」

「会議中発言しない」

3) 「～している」と言う 「状態」 と呼ばれるもの

例: 「二階から落ちる」

「テレビを見ている」

その2

「行動翻訳」をする

- 「ふらふらする」は行動ですか？
- 「ふらふらする」って、どんな行動ですか？ ダンスすることですか？ 保育室内を歩くことですか？ メダカに餌をやりに行くことですか？

ポイントを、まずは焦点化していく必要があります。

「ふらふらする」は、何をする事?

- 曖昧な表現を、具体的な行動に整理することを「行動的翻訳」と言います。
- 「ふらふらする」とは、実はわかるようでわからない。「歩いている」のか、「おもちゃに触れている」のか・・・
- 「行動的翻訳」がないと、どの部分が観測対象かがわかりにくい。チームで行動を測定するのであればなおさら必要。
- 行動を観測できる状態にするためには、この翻訳は重要な作業です。



その3 優先順位を明らかにする

特に問題行動について



対応すべき行動が定まっていないと・・・

- 一日中、大変な行動をしているように感じる。
- 大変な行動が週に一度起こるかどうかであっても、常に大変な状態にある子どもとして扱われてしまう。
- 緊急性が低い行動への対応を一生懸命考え続けていることがある。

優先順位をつけることは、実は子どもの行動を客観的にとらえるためには必要です。

そもそも「問題行動」とは

- 問題行動の基準

1. 自らの身体・健康に著しい危険をもたらす行動
2. 他者の身体・健康に著しい危険をもたらす行動
3. 有意義な学習・労働・レジャーへの参加を著しく妨げる行動

これらのいずれかがあれば問題行動。ただし、「著しい」の評価は人それぞれ。

これが明確でないことで、ただ漠然と「大変な子」と考えがちになる。

「問題」の程度をはっきりさせる

- 自分もしくは他者にとって、緊急性が高い(命に係わる)もの、低い(誰にも危害が及ばない)ものがある。
- 生活への支障が大きいもの、小さいもの
- 保育園・幼稚園でなければできないもの、保育園・幼稚園でなくともできるもの。
- 家庭でなくともできるもの、家庭でなければできないもの。

優先順位をつける

- 対応すべき行動の優先順位をつける。
- その対応は、「園と家庭で協力した方がよい」のか、「園内で対応しなければならない」のか、「家庭への支援を検討しなければならない」のか、あるいは「誰が対応してもよい」ものなのかを、整理すること。

具体的に対応すべき「行動」が定まりました。



生活の中の情報の集め方・使い方

情報収集とアセスメント



スキッタープロット

- 「ある行動」が生起している実態を視覚的に把握するための記録法。
- 行動の生起しやすい時間帯が分かりやすく把握できる。

- ①行動が生起した時間をチェックする
- ②「行動の強さ」も合わせて記録する。
- ③「いくつかの行動」が連続的に生起するものも合わせて記録する。

██████████
██████████
██████████
██████████



1000000

[illegible]

行動観察シート

- 行動の前・行動・行動の後(対応)の様子が記述できる。
- 特に、「どのような対応をしたか」「その結果、子どもの行動はどうなったか」という視点に注目し、“対応と結果”の関係を整理できる。

行動観察シートの記入の仕方

行動観察シート

5 月 20日

利用者の氏名 A太さん

記録者 アリカワ

時間	行動前の事象(きっかけ)	行動	行動後の事象(対応も含む)
9時10分	A太さんの前を、 B子さんが通る と	B子さんの背中 を強く叩く	保育士が駆け寄りA 太さんを注意した

情報の重要性

- 対応方法を検討するためには、ある程度の教育・臨床経験は必要。
- しかし、経験はあっても分析が間違っていれば子どもは変えられないし、変わらない。
- より正確な分析のためには、「精度の高い情報」が必ず必要である。
- また緊急性が高い場合には、収集効率が求められる。チェックリストなどは有効な手段である。

宿題1 保育の改善

施設内の工夫は最低でも一つは行うこと。
それを写真に撮って次回、持参してください。

(例)「スケジュールを示す」や、活動場所を伝えるための工夫(読書の場所に「絨毯をひく」など)

なお写真は、プリントして持ってきてください。次回のグループワークで使います。

宿題2 記録

- 気になる「行動」を明らかにし、その行動の様子を記録してくること。今回は、特に対応について検討をせずに今まで通りの対応をすること。
- 「行動観察シート」と「スキッタープロット」を記録してきたものは、次回のグループワークで使用します。
- 記録を採っている期間の日課表を持ってきました。

おまけ

本日使用したパウポのPDFを、ホームページ「ありちゃんねる」の「研修資料」<http://arichannel.jp/research-program/lecture-meeting/>

からダウンロードできます。ただし、ダウンロード可能な期間は、本日から1週間のみです。

なお「戦略シート」は以下のページからいつでもダウンロードできます。

<http://arichannel.jp/research-program/document-of-aba/>



研究室公認ゆるキャラ
「あり犬」